

授業科目名	総合芸術文化実習	担当教員	尾西 教彰 近藤 のぞみ 井原 麗奈 寺田 卓矢
必修の区分	選択		
単位数	4 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	4 年 第 2 クォーター		
講義内容	<p>この科目では、劇場現場や地域の芸術文化創造に深く関わる場所等で、本格的に働くことを希望する者に対して、将来の志望や適性等を考慮したうえで劇場とマッチングを行う。少数名（1 劇場 1 名、最大 2 名）が長期間（約 4 週間）にわたって実習を行うことで、劇場運営に関わる専門的、実践的な職業能力の修得を目的としている。</p> <p>芸術および地域マネジメントの観点から、劇場内外の業務をスタッフとともにに行い、新たなソフト事業、設備・機構といったハード活用の具体的な企画提案や運営、舞台技術や接客等の専門的な研修も経験することで、劇場運営に係る専門的な知識と技術を体得する。また、将来、多文化・多民族による共生社会の到来が予想される中、社会包摂など時代の要請に応えるビジョンを描き、地域の発展を促すような企画、その実施方法を考える実践的な力を養う。</p>		
到達目標	<p>①劇場のミッションや公共性について、地域特性や社会変化を踏まえて説明できる。</p> <p>②公演制作業務だけでなく、普段行われている管理業務（安全管理、保守点検、経理、委託契約など）についても説明できる。</p> <p>③課題や新たなニーズ等を発見する目的で、外部の関係者（プレイガイド、記者等）や地域住民とも、積極的にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>④劇場芸術によって地域の魅力が再発見され、新たな価値が創出されるような企画を提案できる。</p> <p>⑤劇場内外の状況を総合的に判断し、安全で最適な会場運営に向けて工夫・準備し、行動することができる。</p>		
授業計画	<p>地域の芸術文化施設や組織等〔例／兵庫県立尼崎青少年創造劇場（兵庫県尼崎市）、豊岡市立城崎国際アートセンター（兵庫県豊岡市）、豊岡市民プラザ（兵庫県豊岡市）、SPAC-静岡県舞台芸術センター（静岡県静岡市）〕で、約 4 週間の臨地実務実習を行う。</p> <p>事前学習として、実習施設を調査し、実習先との面談をもとに、実習計画書を作成。関係する課題について調査。</p> <p>実習中は、実習指導者のもと、実際の制作業務、舞台技術研修等に従事し、</p>		

	<p>事前設定された研究課題のリサーチおよびレポート作成を行う。専門スタッフによる外部活動（顧客営業、マスコミ取材依頼など）にも触れることにより、劇場業務と地域との関わりについてより実践的に学ぶ。</p> <p>中間時点及び最終日には学生による報告会を実施するほか、最終日は実習先関係者等を交えた意見交換会も実施する。</p> <p>事後学習として、学生は、担当教員の指導の下、学習成果報告書（4,000字程度、最低3,000字以上）を作成し、劇場や芸術文化団体の管理・運営業務の実践への理解を深め、知識の定着を図る。研修期間を通じて、劇場等関係者（俳優、舞台技術者、プロデューサー等）、舞台芸術の創造環境を俯瞰的にとらえることに努め、大学卒業後の具体的な進路イメージを得る。</p> <p>※実習先については、学生と専任教員との事前協議により、将来の志望や適性等を考慮したうえで、適切な施設を選択する。</p>
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、リサーチ課題を設定する。事後には学習成果報告書（4,000字程度、最低3,000字以上）を作成、提出する。
テキスト	特になし。
参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準	① 実習の態度（20%）、②日報の提出状況・内容（20%）、③施設での中間・最終報告会（20%）、④学習成果報告書（40%）
履修上の注意 履修要件	<p>●実習日時（詳細）は、志望理由を踏まえ、第2Q中に施設で行われる様々な公演・行事等を考慮のうえ決定される。（20日間連続する日程とは限らない。）第2Qは当実習を最優先し、いかなる日程になっても全て出席できることを参加条件とする。</p> <p>●実習終了後、学習成果報告書（4,000字程度、最低3,000字）を速やかに作成し、指定期限までに提出すること。</p> <p>●1日の実働時間は日の実働時間は8時間（休憩1時間を含む）を基本とする。</p> <p>ただし劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。</p> <p>※具体的なスケジュールは、実習指導者との相談の上、後日確定する。</p>
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	■実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、「志望

理由書」および「面接」を元に選考し、履修者を決定する。

■「劇場プロデュース実習1」または「劇場プロデュース実習2」を先に履修しておくことが望ましい。

尾西 (n_onishi*stdat.at-hyogo.ac.jp)

近藤 (nozomi_kondo*stdat.at-hyogo.ac.jp)

井原 (i.rena*stdat.at-hyogo.ac.jp) [*を@に変更]